

平成 25 年  
8 月 1 日発行

# 川島里山塾ニュース

発行：NPO 法人「南山の自然を守り育てる会」 住所 東京都稲城市若葉台 2-12-C802  
Tel/ 050-3690-7611 (梁川)

7 月 28 日の里山塾は、南山周辺の里山を川島さんと歩きました。

見晴らしのいい高台に作られた、あずまやに集合。ここ恵みの里山で栽培した赤ジソのジュースが振る舞われ、一息入れて出発しました。



どんな種類の樹木が生えているのか、どんな風に森が変わってきたのか、草花、昆虫はどんな風に生き延びてきているのかを、川島さんが説明します。

その風景は先人達の自然との共生の暮らしが有ったことを物語っていました。

川島さんの言葉には、自然を愛する力がこもっています。

## ポイント 1：作業にも旬が有る



\* 竹を切る旬は 11 月～12 月。その時期を外すと虫が入ってしまうそうです。

### 下草刈りも時期を選ぶ

7 月下旬に草を刈った山の斜面。ところが川島さんを見ると、これはまずいそうです。「何もかもきれいに刈ってしまったんだよね。だけどこれから咲くショウマ、秋のホトトギス、ジュウニヒトエがだめになる。来年も芽を出してくれるから…」と。「秋でも間に合うんだから」と作業に対する理解の重要性を話します。

## ポイント 2：シラカシの下は笹も生えない



### 稲城の山には無かった

しばらく行くと、大きなシラカシの樹が 1 本有りました。「小さな樹がこの 10 年でこんなに大きくなっちゃった」と川島さん。樹の周りには下草も周囲にはびこるアズマネザサも生えていませんでした。

「先代は山をダメにするからと、稲城の里山にシラカシを生やさなかった」そうです。

## 里山を明治神宮の森にする？

明治神宮の森は元々畑だったところに、全国から寄進された樹木が植えられて、できたものです。90 年も経つと立派な森です。日本の風土は管理しないと、瞬く間に常緑樹の森になります。